

「日本人成人の音響鼻腔計測検査による基準値作成のための研究」へのご協力をお願い

【研究代表者】 鳥取大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科頭頸部外科 名誉教授 竹内 裕美
【研究責任者】 福山医療センター 耳鼻咽喉・頭頸部外科 医長 福島 慶
【共同研究者】 福山医療センター 耳鼻咽喉・頭頸部外科 副院長 中谷 宏章
福山医療センター 耳鼻咽喉・頭頸部外科 医師 竹内 薫

1. 研究の目的

鼻閉は鼻副鼻腔疾患の最も頻度の高い症状の1つであり、鼻科診療において、鼻閉の評価は重要です。鼻閉の程度（鼻腔通気性）を客観的に評価することは鼻副鼻腔疾患の診断と治療に必要不可欠です。現在、客観的に鼻腔通気性を調べる検査法としては、鼻腔通気度検査と音響鼻腔計測検査(Acoustic rhinometry、AR)があり、鼻腔通気度検査は、保険収載されているため現在広く臨床で使用されています。一方、ARは解剖生理学的検査法として海外で普及していますが、本邦では医療機器として薬事承認は受けているものの保険収載はされていないため、現在、限られた医療施設のみでしか施行されておらず、本邦でも普及が期待されています。ARは、負担がほとんどなく、簡便で、鼻腔通気性を客観的に評価ができる有益な検査です。しかし、日本人の健康成人の基準値はまだ決められていません。

そこで健康成人を対象とした多施設共同研究を計画しました。この研究は、日本各地の複数の施設で行われ、測定結果を集計することにより、健康成人の参考値を決定することを目的としています。日常診療のみならず公衆衛生に役立つ基礎資料を作成することにもつながります。

2. 研究の方法

1) 研究対象

鼻副鼻腔疾患がなく、正常な方（成人に限る）

2) 研究期間

登録期間：福山医療センター倫理審査委員会承認後 ～ 2024年3月31日

総研究期間：福山医療センター倫理審査委員会承認後 ～ 2024年3月31日

3) 研究方法

この研究に参加の申し出をいただいた患者さんへ担当医より、文書にて詳しい説明を行い、同意を取得します。その後、外来または病棟にて問診および診察をし、検査を開始します。検査は、左右鼻腔に片側ずつ測定器をあて、約3秒間呼吸をとめてもらいます（右記写真）。

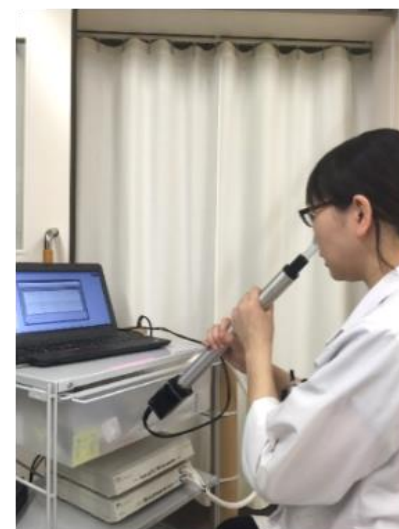
この研究に参加するにあたり、通常の診察料以外に必要な費用はありません。

※検査の前2時間は、食事や運動を行わないでください。さらに、前日の飲酒は控えるようにしてください。

4) 情報の保護

調査情報は福山医療センター耳鼻咽喉・頭頸部外科および鳥取大学医学部附属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科で厳重に取り扱います。電子情報の場合は、ファイルにパスワードを設定し、研究者以外が閲覧できないように配慮します。また、その他の紙媒体のものは当院耳鼻咽喉・頭頸部外科の施設可能な棚に保存します。調査情報は研究結果の最終公表日から5年を経過する日まで保管し、その後、消去及びシュレッダーで裁断する等適切に廃棄します。関連の学会および論文等にて発表する場合にも匿名化したデータを使用するため、患者さんの個人が特定されることはありません。研究結果の開示については、関連の学会及び論文での発表後に、ご希望される患者さん本人と本人の同意を条件にご家族へ開示することができます。

**この研究にご協力いただける場合は、お近くの看護師や担当医師にお申し出ください。
また、ご質問等がありましたら下記までお気軽にご連絡ください。**



<問い合わせ・連絡先> 独立行政法人 国立病院機構 福山医療センター
耳鼻咽喉・頭頸部外科 福島 慶
電話：084-922-0001（代表）